

日本エコロジア



主に飲食店の厨房向けの需要を見込む

木の実成分 業務向け 全国に代理店募集

安全性高い殺虫剤

米穀物大手カーギルグループなどが出資するベンチャー企業の本日本エコロジア(東京・渋谷、西嶋康祐社長)は、安全性の高い業務用殺虫剤を開発した。「ニーム」と呼ぶ樹木の実に抽出

出した油を主成分とする。来年一月から全国で販売代理店を募集し、主に飲食店向けに売る。初年度三百の代理店を組織し、十億円の売り上げを目指す。

開発した殺虫剤「バイロハス」は、欧米で害虫駆除の効果が認められているというニームの木の

実を利用。忌避作用もあるため予防に効果があり、飲食店の厨房(ちゅうぼう)などに散布するのは週一度で済む。

既存の合成殺虫剤は毒剤をゴキブリやハエなどの虫に食べさせたり体にかけたりして殺虫する作用がある。同社の製品は虫が呼吸をする穴である「気門」をふさいで、窒

息死させる。このため昆虫以外には害がない。卵はふ化できず、幼虫は脱皮できない。成虫は食事ができなくなるとしており、すべての成長段階に効果がある。

医薬品や農薬の安全性試験を手掛ける薬物安全性試験センター(東京・新宿、高橋雅夫社長)でラットに対する経口投与で毒性を確認。「人が飲んでも問題ないほど安全」(西嶋社長)という。

液体で、十坪(約三十三平方メートル)用と二十坪(約六十六平方メートル)用の二種類。販売価格は四袋入りでそれぞれ三千七百八十円と五千四百円。殺虫剤をまく際に使う噴霧器は利用者へ貸し出す。ゴキブリやハエなどは一分以内で殺虫する。

代理店を希望する個人や法人は同社に百二十万円を支払う。この費用には殺虫剤が十坪用、二十坪用合わせて二百四十個と噴霧器数十台、チラシや営業用マニュアル、初期研修費などを含む。日本エコロジアは〇三年設立。殺虫剤などを開発・製造。今十二月期売上高は一億円を見込む。